

横浜市政記者、横浜ラジオ・テレビ記者 各位

記者発表資料
平成22年4月20日
磯子区福祉保健課長
戸塚徳雄 電話 750-2410
磯子区社会福祉協議会事務局長
内藤博昭 電話 751-0739

第2期磯子区地域福祉保健計画 「スイッチON磯子Ⅱ」の素案を発表します！ ～誰もが幸せに暮らせるまちをめざして～

第2期磯子区地域福祉保健計画「スイッチON磯子Ⅱ」（平成23～27年度）の素案を作成いたしました。世界のどの国も経験したことのない高齢社会の到来に向けて、私たち磯子区民がどのような準備を始めるべきなのか、という観点から約半年の間、策定委員会を中心に検討してまいりました。

この素案について、区民の皆さんのご意見・ご提案・ご感想を募集していきます。区民の皆さんと共に計画を作っていくと考えていますので、ご意見等をお聞かせください。

1 素案の配布場所、意見募集期間

(1) 配布・閲覧場所

ア 磯子区役所

(1階ホール、福祉保健課運営企画係 (5階④番窓口))

イ 磯子区社会福祉協議会

ウ 磯子区内地域ケアプラザ・地区センター

エ 市庁舎1階市民情報センター 等

※ 磯子区役所ホームページにも掲載しています。

(<http://www.city.yokohama.jp/me/isogo>)

(2) 意見・提案・感想の募集期間

平成22年4月20日(火)から7月31日(土)まで

(3) 募集方法

冊子添付の封筒による郵送・FAX、Eメール



2 素案の内容について

(1) 計画の目標

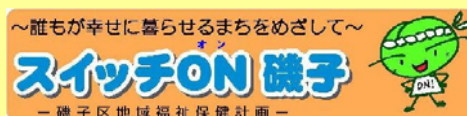
65歳以上人口が全人口の30%を超え、団塊の世代が75歳以上の高齢者に到達する年と言われる2025年を迎えても、誰もが住み慣れたこの磯子区に安心して住み続けられるまちづくりを進めること。

(2) 共通テーマ

磯子区内の全ての地区の皆さんに取り組んでいただきたい2つのテーマを設定しました。

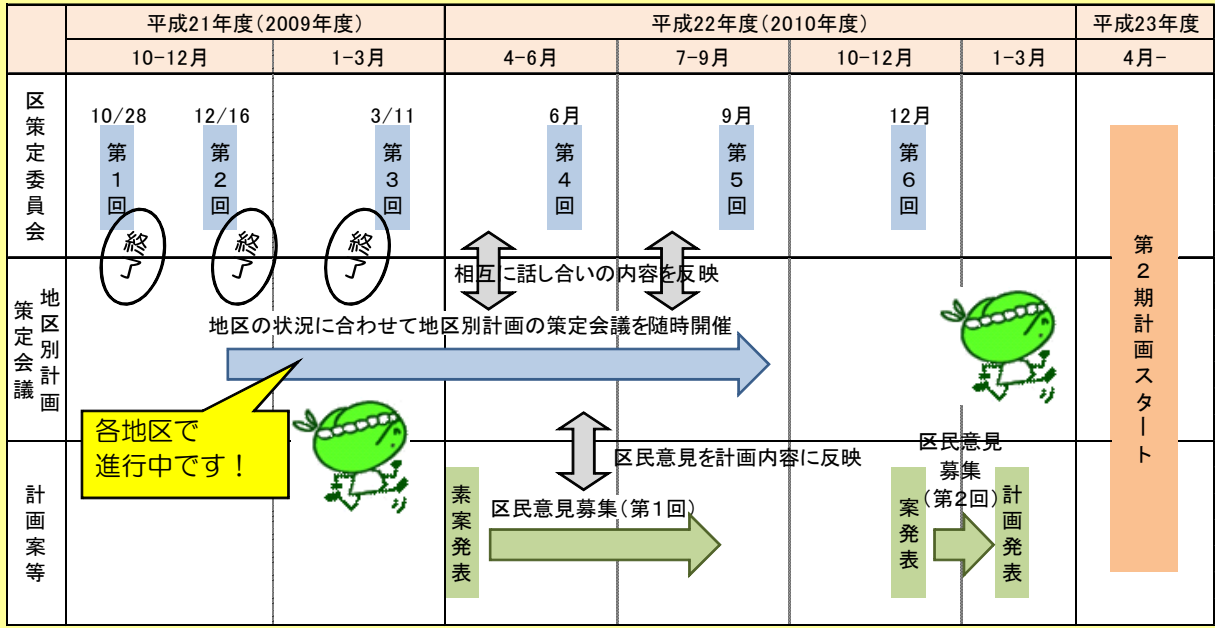
- ・共通テーマ① 地域の支えあいの推進
- ・共通テーマ② 災害時の要援護者の地域でのサポートの推進

子どもから大人まで地域みんなが一緒になって、地域の特性を生かして取り組んでいきましょう！



(裏面あり)

3 第2期計画の策定スケジュール



4 第2期磯子区地域福祉保健計画策定委員会の委員構成(合計23人)

- (1) 各種団体代表10人 (医師会、障害者関連団体、青少年指導員、体育指導委員、保健活動推進員、民生委員・児童委員、連合町内会等)
- (2) 地区代表10人 (磯子区内10地区から各1人) (3) その他行政等3人

『素案』の一部です。ぜひ冊子をお手に取ってください!

■地域の皆さんこそが、地域の福祉保健活動の担い手です!

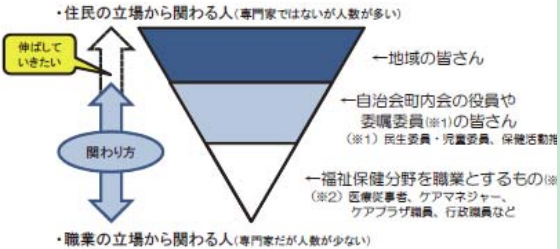
- 今後、高齢者がますます増加する状況の中で、地域福祉の推進を考えた時、中学校区以上のサービス対象エリアを持つ福祉保健の専門家では、小地域ごとの対応を十分に行うことが困難だと考えられる。
- 地域福祉を推進するためには、個別課題に対して解決を導く強い専門性を持つ担い手だけでなく、地域や住民一人ひとりに目を向けることのできる弱い専門性を持つ担い手が求められる。

大都市郊外の変容と「協働」(編者：慶応義塾大学総合政策学部 大江守之教授)

ここで言う「弱い専門性」を持つ担い手とは、仕事としてではなく、地域社会の中で住民から、地域の福祉保健活動に取り組んでいる人を指しています。具体的には、自治会町内役員や民生委員・児童委員等の委員の方々のことです。

「強い専門性」を持つ担い手とは、福祉保健分野に仕事として関わる人のことです。この保健分野を職業とする人たちが、地域の人たちによる福祉保健活動を支えます。

しかし、今後は福祉保健のニーズが増大し、多様化してくることから、住民の中にもっとの担い手が求められてきます。そこで、地域の皆さんが、それぞれの生活リズムの中で、無理のない範囲で、地域社会に関わっていくことが求められてきます。



次のページから紹介する第2期磯子区地域福祉保健計画「タッチON磯子Ⅱ」の共通テーマを進めるために、みんなを出し合ひましょう。

【参考文献】大都市郊外の変容と「協働」- (弱い専門システム) の構築 (編者) 大江守之・駒井正典 (発行) 慶応義塾大学出版会株式会社
健康福祉部の「おんずか」(H22.3.17開催)で基調講演をさせていただきました! 慶応義塾大学総合政策学部の大江守之教授と記念撮影しました!



「おんずか」を抱える大江教授



①地域の支えあいの推進(所管：福祉保健課、高齢・障害支援課、区社協)
ア 民生委員・児童委員を中心とした見守り訪問等(=地域支えあい事業)

見守り・訪問等
民生委員・児童委員 + 保健活動推進員 保健活動推進員など

この取組は磯子区では「地域支えあい事業」と呼ばれ、平成7年に地区に先駆けてモデル地区として取り組みを始めた。事業内容は、ひとり暮らし高齢者、高齢者世帯、ひとり暮らし高齢者、その他支援を要する区民の方に対する見守り・定期訪問の実施や食事会等の開催です。これらの活動は、民生委員・児童委員、保健活動推進員、友愛活動推進員、その他自治会町内会の皆さんが主な担い手となっています。地域支えあい事業による見守り・訪問活動は、地域のあらゆる福祉活動の基盤となる活動です。

地域支えあい事業は、実態に特定の方を初層することから、プライバシーや個人情報に配慮するなど、ある程度の経験や技術が必要です。しかし、現状では、上記の担い手の方々がどうしても不足しがちです。

②災害時の要援護者の (所管：総務課、)

災害時など、自分だけでくまなくサポートしていく必要があります。員に磯子区内の多くの地区は移ります。それぞれの地区は移ります。

～町内会の目
A町内会では、震災時救済活動を行うには、近所を必要だと考えました。そこで、町内会でも独自の支援ができるという目標を掲げています。そして、町内会の方をキーポイントとして確保しています。協力者の方が必要な場合がありますが、日頃の対応をスムーズに少しづつです。

誰もが、近所のことを気にかけている
磯子区を目指そう!

イ 地域の皆さんによる見守り・気配り
電気がどうかな 郵便受けはどうか 何か気が付いたら 少しいい人へ連絡する。
電気がどうかな 郵便受けはどうか 何か気が付いたら 少しいい人へ連絡する。
民生委員・児童委員 自治会町内役員 地域ケアアップ 区役所など

少し話しいい人へ連絡がつけば、素直には専門性の強い人たちのネットワークにつながっていきます。

そこで、地域の皆さんが、ご近所にほんの少し気を配り、何か変化に気が付いたら、少し話しいい人に連絡するという習慣を身につけていきたいと思います。

例えば、会社に行く時、買い物に行く時、学校や塾へ行く時、次の駅に行く時、帰りの配達に行く時、... ほんの少しの回りを見守ってあげてください。

わかりやすい連絡先を地域の皆さんにお知らせしておくことが大切です!

【コラム：災害と自治組織について】
阪神淡路大震災の時には自治会や町内会が被災者の助けをどう果たしたのか、が注目された。大正13年10月1日 東京市社会局「東京市社会局調査報告書 1」
近年の大震災に非常に優秀な事例として、今般の自治会のような新しい組織である。若しその自治会が震災に際しては、被災者の助けをどう果たしたのか、が注目された。大正13年10月1日 東京市社会局「東京市社会局調査報告書 1」
近年の大震災に非常に優秀な事例として、今般の自治会のような新しい組織である。若しその自治会が震災に際しては、被災者の助けをどう果たしたのか、が注目された。